

# 神戸幼稚園の新しき試みの一端 (一)

神戸幼稚園

志

賀

末

前號に掲げた様なことを主眼として日々實行した方法を極めて具體的に而も有りの儘に記せば次の様である。

## 一、時間割

各組共通時間割		説明
自午前八時	掃除	掃除は子供の來りたる時より始まる
至同九時二十分	除 整 頓	會集は郊外に行かざる子供のみ集る
自九時二十分	會集(唱歌談話遊戲)	隨意時間に幼兒に自由に遊具を弄ぶを得
至十時	各 組 隨 意	整頓時間隨意に遊具を使用する時は殊に整頓の必要を感じて此時間を設く
自十一時二十分	各 組 隨 意	郊外には毎日三組づゝ交替にて行く
至十一時四十分	整頓及晝食用意	雨天には別に雨天時間割を設く
晝 食、	食後自由	
自午後一時十五分	各 組 隨 意	
至同一時四十分	整 頓	
終十分間	整 頓	

## 自由遊具の準備

保姆より指定する遊びを少くしたる結果亂雜に流るゝ恐れがあります故に毎日貸與する遊具を毎朝取り掛へて置き子供に任意に使用させます毎日出す遊具は左の様であります。

曜日	組別	紅葉之組	菊之組	梅之組	櫻之組	桔梗之組	撫子之組
月	圖畫、積木、大工、綿、絲等	染色、石盤、紙、糊等大工	粘土紙、綿等製造用具	洗濯用具、飯事用具	自然物、環、板等、飯事用具	染色、石盤、自然物	
火	製造用具、圖畫、石盤、飯事用具、自然物	積木、縫取用具、飯事用具	圖畫、縫取自然物、絲卷	圖畫、自然物、紙糊等	粘土、石盤、積木	洗濯用具、紙、鈔等	
水	縫取、絲卷洗濯用具、紙、ハサミ等	粘土、圖畫、自然物	染色、石盤、大工道具	飯事用具、大工縫取、積木	圖畫、絲卷、紙糊等	製造用具、積木、紙ハサミ等	
木	粘土、大工、自然物	洗濯用具、製造用具、紙、箸、輪其他	積木、縫取用具、綿、絲等	染色、綿、絲等、石盤、絲卷、連鎖	積木	積木、圖畫、飯事用具	
金	染色、石盤、飯事用具	豆、圖畫、大工道具、縫取	豆、圖畫、連鎖	綿、絲等製造用具、石盤	飯事用具、洗濯用具、綿、糸等	豆、粘土、絲卷	
土	豆、箸、輪等	自然物、石盤	洗濯、綿、絲、飯事用具	粘土、豆	豆、連鎖	大工、石盤	

以上示した時間割は各組何れも共通なるものにして此の時間の配置法に依りて各組各々自由に我擔當する子供を尤も良しと考ふる方法にて保育するを以つて一々之れを列擧することは、出来ぬが今其の一例として私が日々實行せる弱の組の概況を左に記して御教示を乞ふことゝ致します。

日々の行事（但し弱の組）

イ、約束

朝鐘が鳴つて集り挨拶を終れば今日一日皆さんとうとうして遊びまじやうといつて尋ねると  
 幼兒は

「喧嘩をしない様にして遊びます」

「人を泣かさぬ様にして遊びます」

「元氣に運動します」

「お體をちやんとしてせなかをまげないで居ります」

「お連れの方に親切にして遊びます」、など各々感じたまゝを發表するので其の中の最も必要と思はれることを唯一つ丈其の口を守る様に約すること。

ロ、會集前一齊に深呼吸をすること、(約三度乃至四度)

ハ、姿勢の矯正

ニ、個人運動

晝食後の自由に遊ぶ時を利用して必要に應じ一人一人に全身又は局部的の運動をなさせる。

身體に特別の疾病なく概して薄弱なる子供は一日の内必ず徒歩、走りごつこをなすこと。

此の試みの主なる要件は室外保育をなすことであるは前述の通りであるがその爲めの特別の設備はない。幸私共の方では庭園の三分の一が藤棚になつて居るので夏の炎天の日でも光線の直射を防ぎよく日光を調節するので、これを利用して居る。そこで子供達はお互に目的を達するまでの過程と

して色々の準備をする大。工遊びをするものは机を運び道具を持つて来て用意するものもあれば粘土の仕度をする者もある、かくて約十五分乃至二十分間は自から撰擇した遊にふける、終ればめいゝかたづけて次の遊びにうつる準備から後かたづけまでの間が丁度四十分乃至四十五分を要するのである凡ての作業の時に於て姿勢に最も注意を拂ふため幼児自身もいたく意識して居る様子が見受けらる。

### 郊外行き

これは一週に四回晴天には必ず實行すること。この郊外ゆきは徒歩の練習をすることに依りて自から足の筋肉を強健にし身體の抵抗力を強めるため。

自然物に接せしめて浩然の氣分を味はせ且つ亦自然物に對する興味を起させるため。

時に採集などして非常によるこぶ。

始めの程はわづか三四丁の所に行く途中に於て

四五人は必ず疲勞して歩行を嫌ふ者があるけれども、半ヶ月の後には悉く元氣に歩き、さすがに廣々とした場所で自由の行動を取ることを最大の樂しみとして自らお山行を要求する様になつた。一ヶ月の後には樹立の山の奥深く上りても尙少しも疲勞の様子が無い。(最も此の時季は最好季の折柄にもよる)

子供の中には習慣上餘り歩くことを好まぬ者あれどもそれは一度と興味を持たせて歩かせることにつとめた。尙今一つは身體の薄弱なるため嫌ふ子供もあれ共元氣づけることに依つて却つて反對の結果を見ることが出來た。

### 特殊の疾病の者に對する注意

之については専門的の知識を有せぬため自分の經驗に加ふるに推測的の極めて一般的方法に過ぎぬ。

#### イ、腺病質の者

該病の擴延に従つて種々なる變症を發見するに

至るも幸に擴延したるものなきためこれの一般療法をなさしむ。新鮮の空氣を呼吸させる。

運動を充分にさす、出來る丈肉筋の發育に注意し、おにごつこ、輪まわし、フットボール羽根つきなどをすゝめてその何れかを一日の中に必ずさすこと、殊にこの體質の者は食物に注意せねばならぬ。つまり營養をよくせねばならぬこと。これは家庭に於て直接關係のあること故家庭と連絡をつけて時折注意する。

#### ロ、心臟病の者

これも極輕度のもの。新鮮なる空氣を呼吸させて凡ての刺激を少なくする。

運動の過度にならぬ様特に注意する。

朝登園した時に一寸脈搏を計る運動をなしたる後再び其手を握りて試みそれより次の運動を課す。

子供自身は餘程意識するまでに苦痛を覺へぬと

自ら注意することを知らぬゆるこれ等の子供に對しては幼稚園と家庭と常に連絡をとり兩者の狀態をよく知りて十分の注意を拂ふ様につとめる。運動はシーソー、マリ投げ、積木、其の他の仕事。

### 神經過敏の者

刺激を少なくするため始めの程は成る丈け他の子供の群より離れ保姆自身友達となりて遊びつつ觀察する、小さい作業をさせぬ様にして大きい材料を與へて餘り細微に神經を使はぬ様注意する。

### 其の外

一般に皮膚纖弱にして發育悪しきものは朝登園した時保育室に於て乾燥摩擦をなす。

### 食物に嫌好甚だしきもの

これは家庭に於て家族の者も困る由を訴へられた、そこで小さい帳面をつくり○と□の印を記入しおかあさんか其の他の人々と同じものを食

べた時は○の印、無理を云つた時は□の印と約束して毎日朝早く正直に食事の模様を聞きとつてこの習慣を直すこと。

食物の好き嫌らひをするの者に二通りある。

その一は野菜物をきらひ、魚肉、牛肉、玉子、かまぼこといった様なもの、外は食せぬものと肉食物を嫌ひ野菜のみ要求するもの。これ等は體質にも依る處ありといへども多くは習慣と我儘の場合が多い故、混食の習慣をつける様に注意した、斯様にすること一ヶ月餘にして従前肉食のみして居てやせて居たに拘らず家庭と幼稚園で協力して注意した爲めか健康状態がよくなりて來た。

尙此の外或る幼児などは毎日蒼白な顔色をして毎日幼稚園に來ては「ねむい〜」といつて疲れた様子をして居た子供も原因を調べて見ると活動寫眞や夜歩きの爲め睡眠時間は不足し不潔な空氣を呼吸するとの多きことが分つた。これ等も家庭の





體發		重發		九月—十月 十月—十一月 十一月—一月 備 考
強ノ組	弱ノ組	強ノ組	弱ノ組	
男	女	男	女	
一一〇 <sup>外</sup>	一一〇 <sup>外</sup>	一一〇 <sup>外</sup>	一一〇 <sup>外</sup>	十一月ハ流行感冒ノ爲メ始全月休ニ付體重ヲ測ルナ得ザリキ
一三五 <sup>外</sup>	九一	一一四 <sup>外</sup>	一一四 <sup>外</sup>	
一三〇 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	一八一 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	
一三〇 <sup>外</sup>	一〇六 <sup>外</sup>	一二四 <sup>外</sup>	一〇六 <sup>外</sup>	
一三三 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	一三一 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	
一三三 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	一三一 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	
一三三 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	一三一 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	
一三三 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	一三一 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	
一三三 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	一三一 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	
一三三 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	一三一 <sup>外</sup>	一〇七 <sup>外</sup>	

九月の始めに於て著しく標準より劣り且つ打ち見る處も弱々しく四月より九月に至る五ヶ月間の發達の遅々たりし此の弱の子供が一見しては見判け難きまでの發達を遂げ（勿論男女各々一名は依然弱なり）たといふことは果して何處に起因するか分明ならねど要するに強の組と弱の組との方法に於て違ふのは平日強組が弱に比して室内の保育を約一時間多くすること、郊外行きの度數の一度少なきことであるこの二つに依りて果して發達の度に影響するものとせば今後の保育の上に一層考ふべき餘地がある。

然し斯る種々なる試みも其の目的の一部に叶ひたりといへどもそれは保育の終極の目的に非らずし

て意味深き究極の目的に達せんとする方法手段である私共は彼等に純にしてかつ亦尊い生命のあることを自覺して居る以上此の生命の向上發展の爲めに盡すべき使命を悟り自ら全力を傾注して此の目的を貫徹のために自ら人格の向上發展のためには絶えず修養することを一時も念頭より離すことは出来ないことを痛切に感ずるのである。（終）

### ◎日本幼稚園協會總會

本會總會は來る五月開催、詳細は次號に發表の筈。